



人口 :289,439 人 （令和 8 年 4 月 1 日時点）

秋田市は、人流と物流の拠点「秋田駅」、クルーズ船の寄港地「秋田港」、空の玄関口「秋田空港」を有します。加えて、雄物川、日本海、出羽山地と豊かな自然に接し、県都でありながら四季折々の風景も楽しめるロケーションが魅力です。



本丸の正門だった「表門」

くぼたじょうあと 久保田城跡

慶長 7 年 (1602) に出羽国へ国替えとなった佐竹氏 20 万 5,800 石の居城です。12 代約 270 年にわたり使用されました。築城は慶長 8 年 (1603) 5 月に始められ、翌年 8 月には初代藩主義宣が入城しました。その後も城普請は続けられ、寛永 8 年 (1631) 頃に完成したと言われています。複数の曲輪（城内の小区画）を備えた平山城（平地にある丘陵を利用して築かれた城）で、石垣を持たない全国有数の土塁の城として知られています。

明治になると、近代公園設計の先駆者である造園家の長岡安平によって公園として整備されました。現在まで千秋公園として市民に親しまれ、秋田市の名勝に指定されています。

城内に現存している江戸時代の建物は御物頭御番所（市指定有形文化財）ですが、各所に当時の痕跡が残されています。

ひといろかわつつみほとけどうくろいとおどしぐそく 人色皮包仏胴黒糸威具足

初代藩主佐竹義宣の所用と伝えられる甲冑です。兜の前立は熊毛製の毛虫です。前立は戦場で自分の存在を誇示するとともに戦における縁起を担ぐもので、「毛虫」をモチーフにしたのは、①毛虫は後退しないことから敵に背を向けない、②毛虫が食う葉を「刃」に見立て敵を食らう、という意味があるとされます。

胴は鉄を洗皮で包んだ特徴的な作りをしています。正面右下に残る鉄砲の弾痕は、大坂冬の陣で受けたとも、強度証明のための試し撃ちの跡とも言われています。



仙北市文化財（2） 角館のシダレザクラ



春に角館の町を彩る国指定天然記念物「角館のシダレザクラ」は、明暦 2 年 (1656) 頃、角館を治めていた佐竹北家によって、京都から苗が持ち込まれたことに由来すると言い伝えられています。現在は計 162 本のシダレザクラが国の天然記念物に指定されており、中には樹齢 300 年以上、直径 1m を超えるシダレザクラもあります。市街地内に古くから受け継がれたシダレザクラの群として他に類例をみないことから、昭和 49 年 (1974) に国の天然記念物に指定されました。

秋田市×常陸太田市×仙北市

交流提携から 19 年



三市連携交流提携都市 佐竹氏ゆかりの文化財

常陸の国を治めていた佐竹氏の国替を機縁とし、歴史的なつながりを背景に、茨城県常陸太田市と秋田市、茨城県旧金砂郷町（現常陸太田市）と旧角館町（現仙北市）がそれぞれ交流を行ってきました。

その後、三市が市町村合併を経て新市となったことを契機に、幅広い分野で交流を行い、市民の友好関係と市勢のさらなる発展のため「三市連携交流」を行うこととなりました。

今回は三市合同企画として、連携のきっかけともなった佐竹氏にゆかりのある各市文化財について紹介します。



人口 :43,349 人 （令和 8 年 4 月 1 日時点）

茨城県の北に位置し、南北に 40km、東西に 15km と県内で最大の面積があります。四季を通して温暖な気候で、ぶどう・なし・水稻・常陸秋そばなどさまざまな作物が栽培されています。



まさかじょうあと 馬坂城跡

初代当主昌義が最初に居城を構えた佐竹氏発祥の地。佐竹氏の歴史はここから始まりました。現在見ることができる土塁や堀切などの遺構は戦国時代のもので推測されます。地域の人々によって整備されており、散策もおすすめです。また、市内には中世・戦国時代の城館跡が 50 箇所以上確認されており、久米城跡や金砂城跡など、佐竹氏のルーツをたどることができます。

さたけじ 佐竹寺

真言宗豊山派の寺院です。佐竹氏代々の祈願所で、「坂東三十三観音霊場」の第二十二番札所としても知られます。現在の本堂は室町時代に建てられたもので、江戸時代には大改修が行われたとも伝わっています。本堂正面の花頭窓や柱、外陣の繋ぎ梁の海老虹梁、組物などに桃山建築の特徴がみられる貴重な文化財の一つです。



仙北市文化財（1） 仙北市角館伝統的建造物群保存地区



昭和 51 年 (1976) 9 月 4 日に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

元和 6 年 (1620) 江戸時代の初め、芦名氏により大規模な都市計画（町割）が実施され、その後は佐竹北家の城下町となりました。保存地区は旧武家町のほぼ中央にあり上・中層武士の屋敷が建ち並ぶところに位置しています。

広い通り沿いに黒板塀が連続し、シダレザクラやモミの大木が深い木立を形成し、江戸時代末期時の屋敷割や主屋・門・蔵の屋敷構え、枡形など武家町の特徴をよく残しています。

仙北市病院事業インタビュー！ ～信頼される病院を目指して～

この特集では、仙北市病院事業スタッフへのインタビューを通じて、仕事の魅力・やりがいなどを多角的な視点から掘り下げていきます！

あなたの仕事はどんなことを行いますか？

私の仕事はいわゆる「レントゲン」と呼ばれるものを撮る仕事です。放射線を安全に利用し、さまざまな機械を用いて体内の状態を写し、医師の診断に役立てます。機械で得られた情報から、立体的な3次元画像を作成したりもします。また、人体に悪い影響が出ないように、放射線の量を適切に管理することも行なっています。さらに、磁気を利用したMRIという機械も使って検査を行っています。

仕事における「やりがい」は何ですか？

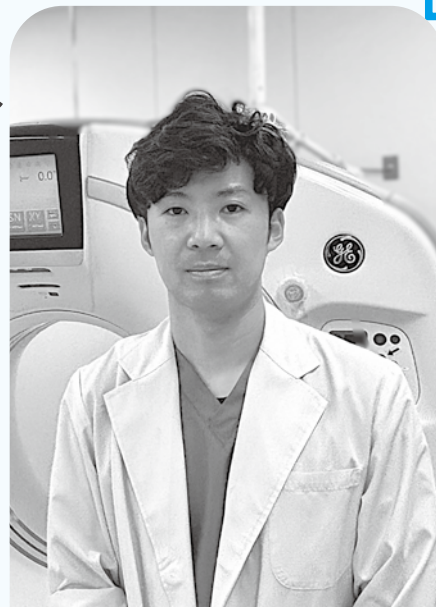
私たちの仕事は病気を正確に写し出す仕事です。医師の指示のもと検査を行います。検査の仕方にもテクニックが必要です。同じ夜空の写真を撮るにしても、暗い写真と、細かい星々まで繊細に写る写真に分かれます。体の中の写真を撮る際にも、隅々まで綺麗に写すことは、患者さんの病気の発見に役立てられますし、やりがいに感じます。

「私たちこんなこともやっています」というものがあればご紹介ください！

当院の放射線科では、診療放射線技師と企業が協力をして、患者さんのMRI検査の質が良くなる補助具の改善や開発に関わりました。従来は、お腹の検査の際に重い機械を載せていましたが、載せなくても良くなるよう検討し、とても楽に検査ができるようになりました。また、患者さんの負担を増やさずに、画像がより綺麗になるようなパッドの開発にも取り組みました。これからも仙北市民のより良い検査環境の向上に努めていきたいと思ひます。

市民の皆さまへメッセージをお願いします！

病気の早期発見はとても重要です。日頃からご自身の体をどこまで把握されているでしょうか。ついつい「自分のことは自分でわかる」と思いたくなりますが、自覚症状が無い『起こり始めの病気』というのはたくさんあります。当院では画像を利用した健康診断や人間ドック、肺がん検診、マンモグラフィ、無痛MRI乳がん検診などを行っています。利用の機会をご検討いただき、自分の体を見つめ直してみるのはいかがでしょうか。



市立角館総合病院 放射線科
ちば たいし
千葉 大志 さん



画像検査で病気の早期発見を！！



笑顔も深さも日本一！！
～田沢湖ブルーを駆けぬけろ～

9月20日、第39回田沢湖マラソンが田沢湖畔周回コースを主会場に開催されました。

今大会には、相互交流のある台湾高雄マラソンのランナーなど、国内外あわせてフル・20キロ・10キロ・ペア（3キロ）マラソンの4種目に総勢3,465人のランナーが参加しました。

8時30分にフルマラソン、9時に20キロ・10キロ・ペアの3種目が号砲とともに一斉にスタート。美しい田沢湖の景色を堪能しながら、選手たちは自身の目標タイムのゴールを目指して、沿道に集まった観客から声援を受けながらペースを刻み、3,372人が完走しました。

ゴールでは、完走の喜びを噛みしめ笑顔でフィニッシュする選手の姿がたくさん見られました。



フルマラソン男子総合では渡邊晋史さん（東京都）が2時間24分34秒で2連覇、女子総合では平山茜さん（青森県）が2時間50分9秒で初優勝を果たしました。

田沢湖マラソンは、たくさんのボランティアの皆さまのご協力をいただいています。ご協力をいただいた皆さま、沿道で応援くださった皆さまに感謝します。ありがとうございました。



宝くじの助成金を活用して 防災資機材を整備しました

西木地区の桁沢・福田自主防災会は、一般財団法人自治総合センターの宝くじ助成金を活用し、災害時の活動拠点として使用するために「アルミテント3張」を整備しました。

このたびの整備により、さらなる地域防災活動の強化が期待されます。



【宝くじの助成金（コミュニティ助成事業）とは】

宝くじの社会貢献広報事業として、安全な地域づくりと共生のまちづくりなどに対して助成を行い、地域のコミュニティ活動の充実・強化を図ることにより、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上に寄与するために行われています。



独立行政法人日本スポーツ振興センターが実施するスポーツ振興くじ助成は、スポーツくじの販売により得られる収益をもとに、地方公共団体およびスポーツ団体が行う、スポーツの振興を目的とする事業が対象となります。

2026 第39回田沢湖マラソンは、この「スポーツ振興くじ」を活用して、大会を実施しました。

助成金交付決定額：6,400,000円

スポーツ振興くじの理念は下に記載のサイトで詳しく紹介されています。ぜひご覧ください。



湖と緑、
風を感じて走る



上桧木内の紙風船上げがサントリー地域文化賞を受賞

上桧木内の紙風船上げ行事が「第48回サントリー地域文化賞」を受賞し、10月5日、保存委員会役員が角館上野庁舎を訪れ市長へ受賞の報告を行いました。

上桧木内の紙風船上げは、五穀豊穡や無病息災、家内安全などを願い、紙風船を冬の夜空に打ち上げる地域の伝統行事です。地域の人口減少や高齢化が進む中でも、住民が力を合わせて伝統を守り続けています。

今回の受賞では、長年にわたり地域に根付き、住民同士のつながりを育みながら伝統文化を継承してきた活動が評価されました。阿部明雄会長は「地域には課題もあるが、素晴らしい賞をいただき、これからも頑張っていきたい」と語り、地域のみんなで受賞を喜びたいと話しました。



仙北市とアース製薬包括連携協定を締結

9月24日、仙北市とアース製薬株式会社との包括連携協定締結式が行われました。

仙北市は2019年3月、地域社会の発展と市民の健康増進に寄与することを目的に、株式会社バスクリンと包括連携協定を締結していました。今年1月、株式会社バスクリンがアース製薬株式会社と合併したことに伴い、これまでの連携を引き継ぎ、新たに包括連携協定を締結することとなりました。

今回の協定では、これまで取り組んできた温泉に関連した連携に加え、アース製薬が持つ知見を生かした健康・衛生に関する取り組みや、災害時の支援などが新たに連携事項として加わりました。

締結式では、田口知明市長とアース製薬株式会社取締役副社長執行役員の降矢良幸氏が協定書に署名し、今後のさらなる連携を確認しました。



善意ありがとうございます

一般社団法人秋田県LPガス協会 LPガスポータブル発電機を寄贈

9月25日、一般社団法人秋田県LPガス協会から、LPガスポータブル発電機を寄贈いただきました。

贈呈式では、同協会の高橋弘隆会長から田口市長へ寄贈の目録が贈呈されました。

同協会では、社会貢献活動の一環として、令和6年度から災害時におけるLPガスの有用性を広く周知するとともに、県内市町村などへ発電機を寄贈する活動を行っています。

今回寄贈いただいた発電機は、災害時のエネルギー確保に役立つものであり、地域防災力の向上につながることを期待されます。



栄光・表彰

各分野で活躍された皆さまをご紹介します

〈敬称略〉

秋田県少年少女陸上競技大会



▶男子5年100m 優勝 田村 新（桧木内小）

9月13日、秋田県立中央公園県営陸上競技場で開催された秋田県小学生陸上競技交流大会兼秋田県少年少女陸上競技大会において、田村新さんが男子5年100mで第1位となりました。

田村さんは、11月22日にMUFGスタジアム（国立競技場）で開催される第42回全国小学生陸上競技交流大会に出場し、全国の舞台に挑みます。

第79回秋田県中学校英語暗唱弁論大会



▶優勝 三浦凜莉（生保内中）

9月17日、秋田県生涯学習センター本館で開催された第79回秋田県中学校英語暗唱弁論大会において、三浦凜莉さんが優勝しました。

三浦さんは、姉妹校である台湾の北投中学校との交流を通して、完璧な英語でなくても生き生きと英語を話し、相手を理解しようとする生徒の姿に感銘を受け、その体験から気づいた「自分自身であること」の素晴らしさについて表現しました。

第24回 東北学童軟式野球新人秋田県大会



▶優勝 西木 Jr. B.C. スポーツ少年団

9月19日から21日、横手市で第24回東北学童軟式野球新人秋田県大会が開催され、西木 Jr. B.C. スポーツ少年団が見事な成績を収めました。決勝では湯沢東を7対1で破り、県大会を制しました。

また、10月3日から4日まで北秋田市で開催された東北大会に秋田県代表として出場しました。

【写真】

前列左から伊藤颯真さん、田村新さん、浅利亮介さん
後列左から佐藤和人監督、佐藤海翔さん、国安泰地さん、高橋夢叶さん

「たつこ姫伝説」 ゆかりの地を巡る

～地域学校協働活動 西明寺小と桧木内小～

西明寺小学校では、地域の特色を知り、地域への愛着をもつことを目的に、全学年で「くりっこ探検隊」活動に取り組んでいます。

3年生は、「たつこ姫伝説」を通して田沢湖の文化遺産にふれ、地域のよさや魅力を広めるために何ができるかを考える活動に取り組んでいます。9月17日に「たつこ姫伝説」ゆかりの地を巡りました。今年は2年後に統合する桧木内小学校3年生も一緒に活動しました。

院内にある「たつこ誕生の地」を皮切りに、同じく院内にある「大蔵神社」、たつこ像のある「浮木神社」、「御座の石神社」、「田沢湖クニマス未来館」の5か所を訪れました。それぞれの場所では、地域学校協働活動推進員の方や地域ボランティアの方が由来や史実などをくわしく説明してくれました。子どもたちもメモを取りながら真剣に説明を聞いていました。

田沢湖には何度も来たことのある子どもたちですが、今まで目にしたことのない場所や隠れた史跡を直接見ることができ、田沢湖の文化遺産への思いを深め、地域のよさを

改めて感じる事ができた一日となりました。素晴らしく晴れ上がり、美しい田沢湖を背景にしながらの活動にもなりました。



たつこ像のある浮木神社

園児たちが交通安全について学ぶ

～にこにここども園・白岩小百合保育園・角館こども園～

9月から10月にかけて、市内3つのこども園・保育園で交通安全教室が開催されました。園児たちは、横断歩道の安全な渡り方や交通事故を防ぐために大切なことを学び、交通安全への意識を高めました。

9月18日、にこにここども園では、一日警察署長の秋田朝日放送株式会社アナウンサーの神下芽衣さんによる交通安全教室が行われました。園内で横断歩道の安全な渡り方について実演指導を受けた後、年長児15人がちびっこ警察官の制服を着用し、年中・年少児とペアになって園舎前の道路を横断しました。

9月25日、白岩小百合保育園では、ちびっこ警察官の制服を着用した園児が老人ホーム寿楽荘と白岩郵便局を訪

問し、交通安全を呼びかけました。また、園の前の道路では、通行する車一台一台に交通安全メッセージカードやシールを配布しました。

10月5日、角館こども園では、ヤマト運輸株式会社と合同で体験型交通安全教室が行われました。園児たちは、トラックの運転席から見えにくい場所があることや、横断歩道を安全に渡るための方法などを学び、交通事故を防ぐために気を付けることについて理解を深めました。

それぞれの園での学びや体験を通して、園児たちは交通ルールを守ることの大切さを学びました。



災害時の行動を考え、備える

～桧木内小・中学校、生保内小学校防災教室～

9月11日、桧木内小学校の体育館で桧木内小・中学校防災教室が、10月2日には生保内小学校で5・6年生を対象とした防災教室が開催されました。両校とも日本赤十字東北看護大学の及川真一さんを講師に迎え、災害への備えや、災害時に自分や家族の身を守るためにできることについて学びました。

教室では、昨年8月の豪雨災害を例に、水害などの災害の怖さや、災害時に必要な行動について考えました。桧木内小・中学校では、児童・生徒のほか地域の方も参加し、意見を出し合いながら、避難所で使用する段ボールベッドやテントの組み立てを体験しました。生保内小学校では、断水や停電を想定した炊飯方法や、ペットボトルを使って水を出したり止めたりする方法に挑戦しました。

それぞれの体験を通して、災害時には「日常の当たり前」が通用しなくなることを学びました。万が一の事態に備えて必要な知識を身につけるとともに、防災への意識を高めるよい機会となりました。



県内各地との交流で地域づくりを学ぶ

～あきた元気ムラ大交流会 2026 in のしろ～

9月12日、能代市のプラザ都で開催された「あきた元気ムラ大交流会 2026 in のしろ」に、田沢地域から4名が参加しました。

この交流会は、あきた元気ムラ登録地域、自治会などが集まり、地域づくり活動の事例発表や交流を通じて、地域の活性化につなげることを目的に開催されたものです。

試食交流会では、田沢地域から「ゆべし」「あさづけ」「ミズの生姜あえ」を提供しました。来場者からは「おいし

い」「どうやってつくるの」などの声が聞かれ、多くの方に味わっていただきました。

参加者は、県内各地の地域づくり団体との交流を深めながら、それぞれの地域で取り組まれている活動について情報交換を行い、今後の地域活動の参考となる貴重な機会となりました。



田んぼアート、収穫の季節

～秋田内陸線沿線で稲刈り 神代小学校～

9月29日、神代小学校の5年生が、秋田内陸線沿線の田んぼアートの稲刈りを行いました。これは、小松・東前郷地区環境保全協議会が、内陸線を応援するために毎年行っている事業です。収穫したあきたこまちは、支援米として被災地や子ども食堂、ボランティア団体などに提供されます。

児童たちは、6月に自分たちで植えた色とりどりの稲を、地域の方々と協力しながら丁寧に刈り取りました。田植えから稲刈りまでの体験を通して、米づくりの大変さや収穫の喜びを感じる機会となりました。

今年の田んぼアートは、江戸時代の浮世絵師・東洲斎写楽の役者絵をモチーフに制作され、秋田内陸線の車窓からも多くの人を楽しませました。



場所：田沢湖小松字野中（内陸線沿線）

響き渡る吹奏楽の音色、会場を魅了

～航空自衛隊 北部音楽隊コンサート～

10月4日、市民会館を会場に「航空自衛隊北部航空音楽隊コンサート」が開催されました。平成18年に始まった同コンサートは、今年で21回目。入場無料のチケットは配布開始後、ほどなく予定枚数に達する人気ぶりで、当日も会場は多くの来場者で埋め尽くされました。

クラシックから映画やアニメ、ドラマの楽曲まで幅広いジャンルの曲が披露され、華やかで迫力のある吹奏楽の演奏に、会場からは大きな拍手が送られました。軽快な曲では手拍子が起こるなど、会場は終始和やかな雰囲気包まれ、訪れた人たちは心躍る音楽のひとときを楽しみました。



演奏体験で広がる笑顔と交流の輪

～秋の和太鼓体験教室～

10月11日、第3回せんばく桜スクール「秋の和太鼓体験教室」が大曲支援学校せんばく校体育館で開催され、卒業生や在校生、市民の方など、関係者あわせて約50人が参加しました。

参加者は太鼓の音やリズムにふれながら、演奏する楽しさを体験し、終了後には、茶話会や近況報告が行われるなど、久しぶりに顔を合わせた参加者同士が和やかな時間を過ごしました。今年で4年目を迎えた和太鼓体験教室では、交流を深め合いながら、世代や立場を超えた人と人とのつながりを感じられる、笑顔あふれるひとときとなりました。



生保内節の伝統、次代へつなぐ

～第39回生保内節全国大会～

9月26日、仙北市民会館で第39回生保内節全国大会が開催され、一般の部82人、年少者の部13人が出場し、磨き上げた節回しを披露しました。

入賞者は、次のとおりです。＜敬称略＞

【一般の部】▶最優秀賞／佐々木深里 ▶優秀賞／嵯峨泉稀、高橋邦子、茂木空、川井ふたば ▶敢闘賞／澁谷四郎、高橋健一郎、伊藤久美子、佐藤貞美子、槻館恭治、櫻田陽子、国柄ミヨ子、高橋貞子、大川あけみ、長谷川芽咲

【年少者の部】▶最優秀賞／佐藤茉侑 ▶優秀賞／嶺脇海翔、畠山咲、浦田詩歌



佐々木深里さん

佐藤茉侑さん

秋田内陸を駆け抜ける

～北緯40度秋田内陸リゾートカップ 第34回100キロチャレンジマラソン～

9月27日、「北緯40度秋田内陸リゾートカップ 第34回100キロチャレンジマラソン」が開催され、県内外から807人が出走しました。100キロの部に加え、新設された70キロと50キロの部も行われ、ランナーたちは厳しいコースに挑みました。沿道では地域住民が手作りの看板や太鼓などで声援を送り、約1,900人のボランティアスタッフも大会を支援。地域の温かな応援を受けながら、ランナーたちはゴールを目指して力走しました。



先人の知恵と技術から学ぶ

～環境学習（草薨家住宅見学）生保内中学校～

9月28日、JCCCA全国地球温暖化防止活動推進センターによる環境学習（気候変動・地球温暖化）が、生保内中2年生家庭科の授業で行われました。「家を考えてみよう」をテーマに昔から現在にかけての家の機能の変化やこれからの住まいに必要な要素を探究するため、国指定重要文化財「草薨家住宅」を見学しました。

当日は、歴史的建造物を守り続ける草薨郁太郎さんから「暮らしの知恵、職人の技術、地域の歴史を未来につなぐ家」についての説明を受けました。講師の(株)やまと建築事務所の松塚智宏さんからは「草薨家は200年前の江戸時代から残る価値ある建物。素材や床、壁、窓、天井などたくさん見て学んでほしい」とのお話がありました。参加した千葉明音さんは「昔の人は現代のような設備がなくても、知恵を生かして生活していたことが分かった」と振り返り、今後の学習の広がり期待される見学となりました。

12月11日(金) (13時30分～15時30分)には、仙北市民会館でケンタロ・オノ氏を講師に、地球温暖化による水没の危機に直面しているキリバスについて学ぶ講演会が開催されますので、ぜひお越しください。





第179号



上級生は1・2年生にやさしく教えながら最後は収穫の体験をさせてあげる優しいお兄さん、お姉さんでした。

9月29日、西明寺小でサツマイモの収穫が行われました。当日は全校児童が縦割り班になり、みんな協力しながら賑やかに収穫しました。6月に植えた苗が大きく育ち、たくさんのお芋がなっている様子に児童たちは大興奮。懸命に土を掘り起こしました。移植ごてを使っていた児童も、最後はイモを傷つけないよう丁寧に手で掘り出す姿が見られました。大きなイモを見つけても掘り出すのが大変な班もあり、「これ大きいぞー」「まだ埋まってるー」「いけいけー」と声を掛け合いながら、楽しそうに挑戦していました。5年の小田長志流さんは「みんなと協力してできた。上手に掘れてすごく嬉しい」、6年の門脇康一郎さんは「イモが大きくてびっくりした。手で掘るのも楽しい」と笑顔で振り返りました。収穫したサツマイモは、なべっこで全校児童でいただきます。5年の進藤泰貴さんは「みんなまでイモを食べるのが今から楽しみです」と期待を膨らませていました。

秋の味覚の収穫

サツマイモ掘り
(西明寺小学校)



6年の鈴木桜子さんはいつも年齢が同じ人しか遊んだことがないので、高齢者と一緒にゲームができて面白かったと振り返りました。

小学校の特別活動であるクラブ活動。生保内小には、運動を楽しむスポーツクラブがあります。10月1日、地域の老人クラブとのスポーツ交流会が行われました。グラウンドゴルフが得意な高齢者の皆さんですが、この日はあいにくの雨。体育館でペタンクに挑戦することになりました。始めの挨拶で支部代表が「みんなと楽しみたい」と声を掛けると、児童たちも元気に呼応。当日は高齢者9名、児童18名が4グループに分かれてゲームを行いました。「行きますー」「うまい、うまい」「おじいちゃん上手ー」と互いに声を掛け合い、頭をなでられて嬉しそうに微笑む児童の姿も見られるなど、終始和やかな雰囲気になりました。参加した5年の高橋昊大さんは「ボールを投げたとき、成功すると嬉しい」、6年の松本陽菜さんは「黄色の球のギリギリ近くを狙うのが面白い」と笑顔を見せ、世代を超えて時間を忘れるほどペタンクを楽しみました。

世代を超えてのスポーツ交流

(生保内小学校)



「絆〜みんなが主役、私たちのラストステージ」をテーマに最後の学校祭が10月4日に行われました。会場の体育館は満員となり、生徒たちの熱いステージが繰り広げられました。一体感あふれるダンスや心揺さぶる吹奏楽の演奏、目を奪う全校ダンスに加え、創作劇では昔の映像や地域の歴史が表現され、涙を流す地域の方々の姿も見られました。終盤の全校合唱では「ふるさと」や上檜木内中学校、松木内中学校の校歌が美しく響き渡り、感動的なフィナーレを迎えました。

清流祭

(松木内中学校)



【抱返り紅葉祭】

10月20日(火)～11月15日(日)

神代小6年の古賀洋海さんは「思っていたより大変な作業だったけれど、きれいになってよかった。来てくれるみんなに喜んでもらいたい」、神代中3年の八柳璃空さんは「地域のためになる活動ができて嬉しい。自分の住んでいる地域をこれからも大切にしていきたい」と頼もしく語ってくれました。地域の美化とともに、子どもたちの郷土愛を育む素晴らしい1日となりました。

抱返りクリーンアップ

(神代小学校・神代中学校)

櫻井智さんの思いを田沢湖の未来へ

～田沢湖振興会発足記念ライブを開催～

10月11日、田沢湖畔の田沢湖 ORAE で、櫻井智田沢湖振興会の発足を記念したムービーライブが開催され、関係者やファン、地元住民などが映像を楽しみながら交流を深めました。

振興会発足のきっかけは、アイドルや声優として活躍した櫻井智さんと田沢湖との縁です。療養のため田沢湖周辺に滞在した櫻井さんは、地域の人々との交流を通して、田沢湖の自然や人の温かさに魅了されました。2025年8月に逝去された櫻井さんと地域とのつながりを大切にし、その縁を未来へとつなげようと、地元の飲食店関係者や所属事務所関係者らが振興会を発足させました。

今後は、田沢湖の魅力発信や地域のにぎわいづくりに取り組み、人と地域のつながりを広げていくことを目指しています。



災害による集落の孤立に備えて

～孤立集落防災訓練 上桧木内地区～

10月16日、上桧木内地区の山鳩館などを会場に、孤立集落防災訓練が行われました。昨年の大雨災害を踏まえ、大規模災害によって集落が孤立した状況を想定し、内閣府、秋田県、仙北市が連携して実施したものです。

訓練では、避難の呼びかけや要配慮者の避難支援、山鳩館体育館での避難所開設など、災害発生時の対応を確認しました。また、災害時を想定した炊き出しも実施されました。

このほか、市役所田沢湖庁舎の災害対策本部との映像伝達訓練なども行われ、関係機関が連携して対応する手順を確認しました。災害による集落の孤立に備え、地域の防災力を高めるための貴重な機会となりました。



角館の町並み、守り継いで50年

～仙北市角館 重要伝統的建造物群保存地区選定50周年記念シンポジウム～

10月18日、仙北市角館交流センターで、昭和51年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されてから50年の節目を記念するシンポジウムが開催され、県内外から約180人が参加しました。

これまで町並みを守ってきた表町丁内会、東勝楽丁内会、角館伝建群保存地区の町並みを守る会、角館北地域自主防災会に感謝と敬意を表し、感謝状が贈呈されました。

基調講演、角館中学校2年生による課外学習の成果発表を行ったほか、パネルディスカッションでは、これまでの歩みを振り返りながら、町並みを未来へ継承していくための課題や展望について考えました。



このシンポジウムは、一般財団法人自治総合センターが実施するコミュニティ助成事業により、実施しました。コミュニティ助成事業とは、宝くじの受託事業収入を財源とする助成金により、地域のコミュニティ活動の発展と住民福祉の向上に寄与する社会貢献広報事業です。